

栃木県

書道連盟

会報

第39号

栃木県書道連盟
 会員数 現在 650名
 会長 村松 太子
 〒321-0107
 宇都宮市江曾島2-14-1
 TEL (028) 645-4160
 編集事務局
 振替口座 00340-3-9017
 〒322-0012
 鹿沼市松井1-98
 印刷 ビ・オ・印刷

ご挨拶



栃木県書道連盟

会長 村松 太子

新秋を迎え、会員の皆様にはつつがなく御健筆のこととお慶び申し上げます。

私はこの春の役員改選により、松本宜響第十四代会長の後任として、第十五代会長を拝命いたしました。あわせて副会長には大浦星齋・五江測霊水・関口鶴情先生を戴き、塚原秀巖事務局長を中心に新体制で諸行事を進めてまいります。

伝統と実績豊かな本連盟会長の大役は身に余る重責でもあり、身の引き締まる思いをしております。もとより微力ではありますが本連盟のより一層の発展のため新役員一丸となつて誠心誠意精励して参りますので、よろしくお力添えをお願いいたします。

さて、私達は新型コロナウイルスにより、大変な思いをし続けており、楽しみ

にしていた春がいつの間にか過ぎ、梅雨を通り、夏を迎え、初秋になりました。その間、本連盟も会員展や総会そして講演会等が中止になる残念な状況でした。この折に私が考えたことは、栃木の力々についてです。平成二十八年の本連盟の会報35号で前松本宜響会長は巻頭言の中で次のことを主張されています。

「書心」は連盟に脈々と伝わっています。そして会員一人一人に受け継がれ更に深化しようとしています。規約には「会員相互の研鑽と親睦に努めながら、書道の普及発展を図る」とありますが、連盟の良さは「書心」にかける思いがたとえ違ったとしても互いに刺激研鑽しあいながら相互に高めあつていく所にあります。」

つまり素敵なバランスを保ちながら本連盟の会員は書道を通して黙々と各自の努力を続ける力を抱えていることです。

私は栃木に生まれ栃木の書道に育まれてここまで来ました。栃木の書心のこそ私の原動力です。謙虚で人を押しつけようとせず、地味であり目立ちませんが着実です。これからの活動はこの心の継続を心掛けます。

来る十月十八日(日)栃木県総合文化センターにおいて、実技講習会が予定されておりましたが、「顔真卿の書」と題し、私が担当いたします。

顔真卿の書に高校時代に出会ったことで、書を専門にしようと決め、師を山崎大抱にしました。その理由は二玄社の書道技術講座の争坐位稿を師が担当されていたためでした。その運筆の手を学びに十三年間通いました。書は師伝だと強く思いました。その運筆の実際を目の当たりにし、プロの技を知りました。

しかし、私自身本物には程遠く現在も未熟です。師の名を汚しているようです。只、折角の機会ですから頑張ろうと思います。何より書道連盟会員の皆様にお逢いできることを楽しみにしつつ、就任の挨拶といたします。

総会等中止報告

事務局

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、第58回会員展を中止としました。

令和二年度総会は6月7日(日)宇都宮グランドホテルにて開催する予定でしたが、これも中止としました。総会に代わる措置として、書類による承認により議事は承認されました。

6月7日(日)講演会、懇親会中止
 今年度の研修旅行は中止

11月8日(日)ホテルニューイタヤで予定していた栃木県芸術祭美術展書道部門、入選入賞者のつどいは中止としました。



令和2年度 新しい役員の方々

第三十二回女流展

上村 千 嶂

コロナが蔓延はじまる頃の二〇二〇年二月八日〜十一日に栃木県総合文化センターにて開催、講評会は十一日十一時〜十二時三〇分に行われました。

講評会司会は佐野市大竹汎泉先生、ご講評は副会長の五江渕先生です。

講評は出品目録記載逆順で行われました。

- ・和田芳華 纏まりある作品。
- ・渡辺祥蒲 空間の取り方、文字構成・濃淡良好。
- ・渡邊春峰 活力あり筆勢、生命感ある。
- ・和気虹涛 構成が奇抜で素晴らし。
- ・我妻淡雅 筆が動き、渴筆が最後まで効いている。
- ・山本響花 4字構成良。筆の開閉が絶妙。落款の入れ方良。
- ・山崎祥彩 斬新構成、筆の墨の入れ替えが絶妙。落ち着きある。
- ・松島芳子 気持ち切れず、文字の大小も佳。調和良い作。
- ・増山恭晏 同じ字を字体変え気脈途切れず、落款位置も良好、濃淡の変化佳。

- ・増山水豊 ばねの効いた線が魅力。手慣れた線と切れ佳。
- ・古橋洋舟 筆勢・濃淡・運筆変化あり、重心を斜めに置いたところが面白い。
- ・藤田貞子 落款の位置が良。濃淡が自然、変化あり。
- ・平松芳華 濃墨と破筆のリズム、大胆・安定感・流れも佳。
- ・林 游李 篆刻での曲線がすごい。朱と白の調和が佳。
- ・花塚香陽 柔らかく暖かい作。線の滲み・墨色・緩急の変化も良。
- ・野中林雨 綺麗な装丁で豪華。流れ・濃淡・文字大小も佳。
- ・西脇紫竹 落款位置が良。余白・流れを纏めた作。
- ・富田明蘭 纏まった作。余白、安定感あるが、迫力表現欲しい。
- ・塚原知子 2字作品は対角線にするとうまい。余白を良く纏めている。
- ・始澤多恵 安定感あり。亀の字を少し小さくすると良かったか？
- ・佐野のり子 書き慣れ、行間変化・落款がなじんでいる。
- ・斎藤洋子 墨色が調和している。思いが深く、落ち着き有。
- ・小島恵香 文字間・濃淡が良い。墨付けが少し高い所にあると面白い構成か？
- ・見目月華 最初の文字が毅然として。料紙の使い方が良く、気品ある作。



- ・桑子暉水 大きく明るい作。余白が少なく文字が大きいのか？
- ・亀和田郁芳 筆力ある作。濃淡を出しベテランの味。
- ・岡安あゆみ 若さを感じる表現。心を込め落ち着いた作。
- ・大平筑楓 立体感あり、墨の濃淡、やりすぎが無く広々とした作品。
- ・大原綾月 構成のバランスが良い。空間の締めた所が憎い。
- ・大塚雅恵 粗密の出し方が絶妙。書き慣れた作。
- ・石原水蒲 明るく伸びやかな作。文字の作り方が暖かい。
- ・板橋寿鶴 明るい作。雰囲気良好。最後の文字が縦長か？
- ・赤澤丹秋 表装とマッチし、行の傾け方、行間変化、落款位置も佳。

- ・相田鳳香 “花”の滲みが素晴らし。
- ・飯野彩心 筆圧が適切で線条佳。落ち着いた作。

◆講評後の五江渕先生の感想

全体的に品ある作が多かった。大きい作品、迫力ある作にチャレンジを期待。

◆交流会

司会は阿部祥廬先生、竹澤久子先生。

会長挨拶、講評の五江渕先生挨拶、乾杯は重原聖鳥先生で始まり、会食進行している中、十四時から大抽選会開始。

各先生からの賞品提供を受け、大当たりの方々多数あり。大喜びで賞品を受け取り、和やかに終了となりました。



令和元年度研修旅行報告

理事 小形 則江

令和元年10月20日(日)、東京国立博物館、台東区書道博物館をめぐり、研修旅行が実施された。

台風19号が栃木県を通過し、甚大な被害、大きな爪痕を残しての直後であったが、会員の中には住宅等被害に遭い、残念ながら不参加となった方もおられ、参加者は36名であった。あらためて罹災された方々にお見舞い申し上げます。

当日濃霧の中、バスは6時25分宇都宮出発。途中栃木乗車の8名と合流。まず松本会長、斎藤研修部長、塚原事務局長のご挨拶があり一路東京へ。国立博物館到着は9時10分。国立博物館(日本最古の博物館、国宝89点重要文化財643点収蔵)には書道博物館の主任学芸員の鍋島稲子先生がわざわざお越しになり、我々を迎えてくださった。そして我々だけのために鍋島先生と国立博物館学芸企画部長の富田淳先生がご用意くださった特別な部屋に。富田

先生から説明を受けた後、至宝とも言える作品群とマスク着用ながらもガラス無しの直で対峙鑑賞。清の乾隆三筆、劉墉等の墨痕鮮やかで生き生きとした貴重な書を、静寂な中拝見。富田先生は書表現の変遷や、本物を見ることがの大切さを説かれました。充実した時を過ごし、感激致しました。

昼食は和やかに豆腐料理に舌鼓。休憩を兼ねて浅草散策後、書道博物館へ。再度鍋島先生がお出迎えくださいました。書道博物館は中村不折が独力で蒐集した、中国、日本の書



道史上貴重なコレクション(重要文化財12点、重要美術品5点収蔵)を有する博物館。最初鍋島先生から文字の変遷等のお話を頂戴した。甲骨文字は古代文字の世界。ここから文字の歴史は始まり、篆隸と続き最後は楷書で終わる。隸書は日常書体で、これから早書きとして行草書が生まれたこと。また、民族の統一は秦始皇帝による文字の統一に拠るところが大きいこと、清の前半考証学の発達に伴い碑学派が誕生したことなど、興味深いお話を拝聴し、よい勉強をさせていただいた後、ゆっくり館を見学させていただいた。

今回の研修は、三千五百年前の殷から近世の清、明国の書まで悠久の歴史に触れることで、深遠な書の世界に魅了され、至福の時を過ごさせていただきました。栃木県書道連盟のために東奔西走ご準備くださった富田・鍋島両先生に心より感謝、深く御礼申し上げます。

帰途のバス中はビンゴゲームで盛り上がりました。幸運に会長、副会長先生の作品を引き当てた方も。お隣の方は大吟醸を、私もワインをビ

ンゴ。6時に無事宇都宮に到着。晴天に恵まれ、収穫の多い楽しい研修旅行となりました。



各部の方針と活動内容

研修部

部長 斎藤 一吼

今年になり世界中でコロナウィルスが猛威を振るい、栃木県書道連盟の活動も自粛せざるを得ない状況です。研修部の活動も実技講習会のみとなっていました。研修部一同、力を集結し、実施に向けて努力をして行きます。

今年は部長・斎藤一吼、担当常任理事・松本純美代、副部長・石戸松波、嶋田周、部員・斎藤裕一、星司光、秋山名華、小林香風、板橋寿鶴、山崎秋月、大塚雅恵、小形則江、加藤榮舟の13名で活動しております。

活動内容

◎実技講習会

◇とき 令和2年10月18日(日)

14時～15時30分

◇ところ 栃木県総合文化センター

特別会議室

◇内容 「顔真卿の書」

書展部

部長 川島 汀蒲

書展部では、会員展・女流展の企画、案内、設営を担当します。

本年4月に予定しておりました第58回会員展は、新型コロナウイルス感染症拡大の収束の目途が立たず、残念ながら開催を断念せざるを得ない状況でした。出品予定の皆様には、お手を煩わせてしまいましたこと、お詫び申しあげます。

また、皆で会場に集い、安心して書展が開催できる日が戻ることを祈るばかりです。

新メンバー3人を迎え、書展部一同、実りある展覧会が開催できますよう、取り組んで参ります。

会員の皆様の、ご参加、ご協力をお願い申し上げます。

メンバーは、部長・川島汀蒲、担当常任理事・磯翠茗、副部長・神長雪華、平石春水、部員・白井薫苑、加茂珠香、井上都洞、萩野谷香華、上村千嶂、大竹汎泉、荒川實穂、石川子澄、林竹聲、山本響花の14名です。

書展予定

◎第33回女流展

◇とき 令和3年2月11日(木)祝

14日(日)

◇ところ 栃木県総合文化センター

◎第58回会員展

◇とき 令和3年4月22日(木)

25日(日)

◇ところ 栃木県総合文化センター

総務部

部長 篠崎 無関

新年度の多くの行事が中止、延期となり、総務部が担当すべきであった総会の進行運営などはなくなりましたが、5月末には新役員のメンバーも決定し、感染の報道が続く中、会報の作成業務に取りかかりました。発行は9月1日予定。報告すべき行事なども減り、縮小した紙面となりますがご容赦ください。

栃木県芸術祭書道展の入選入賞のつどいは中止となりましたが、連盟会員の皆様が素晴らしい作品を出品し、入選入賞されることを願っております。

また引き続き高校生顕彰に関する業務も行っていきたいと思っております。書を愛する若い仲間を是非増やして

いきたいと考えます。ご協力をお願い致します。

総務部

部長 篠崎 無関

担当常任 日賀野 琢

部員 澤田 寛

安藤 磨紀

鶴見 晨蒲

倉持 玄風

大類 天鶴

見目 月華

竹澤 久子

佐藤 孝

赤澤 寧生

清水 柳絮

催し物案内

日光市書道連盟 第14回会員展

会期 9月24日(木)～27日(日)

会場 杉並木公園ギャラリー

責任者 皆川桂花

生誕110周年記念「白川静『文字講話』に学ぶ」(全2回)

会期 9月27日(日)・10月11日(日)

13時30分～16時30分

会場 県総合文化センター第一会議室

主催 観星楼書道篆刻研究院

責任者 大浦舟人

Tel 090-2726-13472

E-mail kanseirou@gmail.com

令和 2 年度 栃木県書道連盟 役員名簿

番号	役職名	地区名	専門部	姓 号
1	名誉顧問	大田原		酒 井 真 沙
2	名誉顧問	宇都宮		久 津 美 碧 洋
3	新名誉顧問	芳賀		重 原 聖 鳥
4	常任顧問	塩谷		鈴 木 源 泉
5	常任顧問	宇都宮		赤 澤 豊
6	新常任顧問	宇都宮		松 本 宜 響
7	顧問	宇都宮		木 曾 梅 邦
8	顧問	大田原		村 田 幽 香
9	顧問	宇都宮		癸 生 川 天 遊
10	参与	宇都宮		生 田 目 史 雲
11	参与	宇都宮		荒 井 雅 子
12	参与	小山		上 野 鶴 陽
13	参与	栃木		石 川 善 克
14	参与	栃木		腰 塚 藤 翠
15	参与	宇都宮		諏 訪 公 道
16	参与	宇都宮		中 山 志 峰
17	参与	宇都宮		谷 古 宇 栖 洞
18	参与	芳賀		刑 部 素 心
19	参与	宇都宮		大 谷 津 紫 水
20	参与	宇都宮		山 田 雅 子
21	参与	宇都宮		吉 田 竹 溪
22	参与	栃木		田 中 暁 亭
23	参与	下都賀		高 橋 瑞 峰
24	参与	足利		漆 原 常 石
25	参与	塩谷		鶴 見 芳 花
26	参与	塩谷		阿 久 津 天 舞
27	参与	鹿沼		兼 目 悠 久
28	参与	大田原		長 嶋 石 城
29	参与	下野		生 沼 冬 情
30	参与	下野		伊 澤 小 園
31	参与	さくら		小 森 聖 子
32	参与	那須塩原		笹 沼 映 子
33	参与	栃木		小 林 桂 華
34	参与	那須塩原		高 橋 金 舟
35	参与	塩谷		山 本 紅 葉
36	参与	芳賀		矢 野 弓 翠
37	新参与	宇都宮		下 司 香 雪
38	新参与	足利		阿 部 祥 廬
39	新参与	佐野		柳 田 昂 雲
40	新参与	那須塩原		大 場 山 東
41	新参与	宇都宮		小 森 梅 壽
42	新参与	小山		林 游 李
43	新会長	宇都宮		村 松 太 子
44	副会長	下野		大 浦 星 齋
45	副会長	塩谷		五 江 洌 靈 水
46	副会長	足利		関 口 鶴 情
47	常任理事	鹿沼	事務局 長	塚 原 秀 巖
48	常任理事	塩谷	研修部 長	斎 藤 一 吼
49	常任理事	栃木	書展部 長	川 島 汀 蒲
50	常任理事	矢板	書展部 担当	磯 翠 茗
51	常任理事	宇都宮	総務部 長	篠 崎 無 関
52	常任理事	宇都宮	総務部 担当	日 賀 野 琢
53	新常任理事	鹿沼	事務局 会計	渡 邊 司 寶
54	新常任理事	小山	研修部 担当	松 本 純 美 代

番号	役職名	地区名	専門部	姓 号
55	理事	宇都宮	総務部	安 藤 磨 紀
56	理事	宇都宮	総務部 副部長	澤 田 寛
57	理事	宇都宮	総務部	大 類 天 鶴
58	理事	宇都宮	書展部	井 上 都 洞
59	理事	宇都宮	書展部	萩 野 谷 香 華
60	理事	宇都宮	総務部	橋 本 竹 泉
61	理事	宇都宮	研修部	星 司 光
62	理事	宇都宮	総務部	鶴 見 晨 蒲
63	理事	宇都宮	事務局	五 月 女 章 子
64	理事	宇都宮	総務部	赤 澤 寧 生
65	新理事	宇都宮	書展部	山 本 響 花
66	新理事	宇都宮	事務局	北 村 の ぞ み
67	理事	足利	書展部	上 村 千 嶂
68	新理事	足利	研修部	秋 山 名 華
69	理事	栃木	研修部	小 林 香 風
70	理事	栃木	研修部 副部長	嶋 田 周
71	理事	栃木	書展部	白 井 薫 苑
72	理事	栃木	書展部	加 茂 珠 香
73	理事	栃木	書展部	林 竹 聲
74	理事	佐野	書展部	大 竹 汎 泉
75	新理事	鹿沼	研修部	板 橋 寿 鶴
76	理事	日光	研修部 副部長	石 戸 松 波
77	理事	日光	書展部	荒 川 實 穂
78	理事	小山	総務部	倉 持 玄 風
79	新理事	小山	総務部	清 水 柳 絮
80	新理事	小山	研修部	山 崎 秋 月
81	理事	芳賀郡市	研修部	大 塚 雅 恵
82	理事	芳賀郡市	書展部	石 川 子 澄
83	理事	大田原	総務部	佐 藤 孝
84	新理事	大田原	事務局	大 高 玉 香
85	理事	矢板	書展部 副部長	神 長 雪 華
86	理事	那須塩原	事務局	深 川 耕 心
87	理事	さくら	書展部 副部長	平 石 春 水
88	理事	那須烏山	研修部	齋 藤 裕 一
89	新理事	下野	事務局	鈴 木 蓮 徑
90	理事	上三川	研修部	小 形 則 江
91	理事	下都賀	総務部 副部長	竹 澤 久 子
92	理事	塩谷	研修部	加 藤 榮 舟
93	理事	塩谷	総務部	見 目 月 華
94	新監事	宇都宮		岡 村 白 秋
95	新監事	小山		坂 本 典 子

番号	役職名	地区名	専門部	姓 号
1	常任理事	鹿沼	事務局 長	塚 原 秀 巖
2	常任理事	宇都宮	事務局 次長	篠 崎 無 関
3	新常任理事	鹿沼	新事務局 会計	渡 邊 司 寶
4	理事	那須塩原	新事務局 HP 担当	深 川 耕 心
5	理事	宇都宮	事務局	五 月 女 章 子
6	新理事	大田原	新事務局	大 高 玉 香
7	新理事	宇都宮	新事務局	北 村 の ぞ み
8	新理事	下野	新事務局	鈴 木 蓮 徑
9		下野	事務局 員	柏 崎 麗 泉
10		栃木	事務局 員	佐 山 春 翠
11		さくら	事務局 員	平 石 彰 之
12		さくら	新事務局 員	花 塚 香 陽
13		宇都宮	新事務局 員	関 奨 人

地区便り

大田原市書道連盟の活動

理事 佐藤 孝

本連盟は平成15年4月に設立され、本年度18年目を迎えます。

初代会長酒井真沙先生・第2代会長長嶋石城先生・令和元年現在の第3代会長村田幽香先生に引き継がれ、市内の書道愛好者70名の会員が集い活動しています。

主な活動は5月の総会・11月の書展・会員の交流懇親会等行っています。この度の17回書展、会期・11月15日～17日・会場・那須野が原ハーモニホールで開催しました。漢字、かな、古典臨書、少字数、漢字かな交じり等、意欲と情熱溢れる作品が展示されました。小作品は令和の元号にちなみ新しい年に向かい、それぞれの思いを表現した作品がご来場者に楽しんで頂き、お陰様で盛会裏

に終了しました。懇親会なども、それぞれ感想を述べあい和やかに、又次回も交流を深め頑張ろう！参加者全員で誓い合いました。

宇都宮市文化協会会員展に

よせて

理事 山本響花

今年は、第44回栃木県文化振興大会が宇都宮市で開催されました。それに合わせて文化協会会員展は、宇都宮市、河内、上三川町文化協会と合同での開催となり宇都宮文化会館にて、日本画、洋画、版画、書、工芸、写真と各部門の作品134点が展示されました。4日間の短い会期でしたが、1069名と多くの方々足を運んでくださり盛会に終了致しました。今年は特別展のためありませんでしたが、毎年会期中に行われているワークショップは、誰でも気軽に参加できて楽しい交流の場になっています。昨年は、書道部門が担当でした。最後に各部門の方々と協力し今後も更なる文化芸術の振興のため会員の一人として活動に参加して

参りたいと思います。

芳賀郡市書道連盟の活動

理事 石川子澄

本連盟は、平成20年10月、一市四町（真岡市、芳賀、益子、茂木、市貝各町）書道愛好家77名により発足しました。

隔年、実技講習、会員展を実施しています。

昨年度、大畑耕雲会長のもと刑部素心顧問のご指導により、第6回展を芳賀町情報館にて10月12日～14日迄開催。重原聖鳥顧問をお迎えし、作品のご講評をいただき、次回展向上を誓いました。会期中多くの皆様にご来場賜り感謝申し上げます。

また、毎年郡市芸術祭に参加しており、地域文化振興の一助になればと考えています。

一人でも多くの入会をいただき、会員相互の研鑽と親睦をはかり、有意義な連盟を目指しています。

「さくら市書道連盟」の近況報告

理事 平石春水

今年度のさくら市書道連盟総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、資料を会員に届け了承願う形とさせて頂きました。例年は総会の後、和気藹々と親交を深め、さくら市書道連盟展について楽しく語り合えるのですが、残念ながら後の機会まで、延期です。

今年度は役員改選の時期であり、小森会長の勇退を受けて、八木澤秀巖新会長体制が発足いたしました。副会長は、永井東洞氏、永井永平氏、事務局は平石春水、高橋光雲氏、会計は花塚香陽氏、会計監査は、吉成穀雨氏、村上紅月氏。そして顧問に小森聖子氏が就任。

毎年さくら市ミュージアムで開催している「さくら市書道連盟展」は、残念ながら今年度は中止となりましたが、今後とも地域の書文化向上と、会員相互の研鑽に努めていく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

改組新第六回日展(2019)

日本の書二〇〇人選

—東京2020大会の開催を記念して

中央書壇で

活躍する連盟会員

常任理事 日賀野 琢

【中央書壇—この一年トピックス—】

▼昨年一月「顔真卿展」の大盛況が記憶に新しい中、秋恒例の我が書道連盟研修旅行、東京国立博物館・書道博物館の余韻も冷めないまま年が明け、いよいよ今年はオリンピッククイヤー、日本の芸術文化にもスポットが当たるだろうと期待していた矢先、新型コロナウイルスの脅威が瞬く間に蔓延し、全国の書道界にも重く暗い影を落とした。

▼大規模社中展では二月、審査を終え陳列間近の創玄展がいち早く開催中止を決定したのに続き、謙慎展も審査までは何とか終了したもの、三月下旬の展覧会開催は断念。新聞社系大型公募展も、七月開催の第七二回毎日展、八月開催の第三七回読売展ともに、来年同時期に九一年延期を発表するに至った。地方でも軒並み七月頃まで、行政系公募展、社中展、グループ展、個展等が全て中止の異常事態となった。

▼その中で、「日本の書二〇〇人選—東京2020大会の開催を記念して—

は当初四月予定を六月に繰り下げて無事開催された。この展覧会は今年予定だった東京オリンピック・パラリンピックを記念し、文化芸術の新たな価値を世界に発信・創出する好機として、日本の書家二〇〇人を選抜（栃木在住では筆者が出品した。作品写真以下）、また共生社会の実現を目指して、障がい者の力強い書や、小学生から大学生までの日本の次代を担う児童や青少年の澁刺とした書も展示するもの。日本の書道文化が現代に息づき、継承されている形を総合的に展覧し、オリンピックの機運醸成を図るという企画。残念ながら期間中のデモンストレーションや披露パーティ等は全て中止となったが、会期初日、萩生田文部科学大臣が、現状況下での展覧会開催の在り方を視察する目的も含め来場された。

▼この「コロナ禍」は、我々書家側だけでなく、展覧会を陰で支援してくれている関係業者にも大きな影響を及ぼした。特に表具店、陳列業者などは、展覧会中止が相次いだため、経営難に見舞われるところも。

▼今後、第二波、第三波の到来が懸念される中、我々の「書道展覧」のやり方にも工夫と改革の必要性が叫ばれつつある。展覧会場での3密回避や消毒徹底は勿論だが、公募展では審査中の密、また多人数での陳列の密をいかに避けていくか、大きな課題が突きつけられている。すでに

都内の若手集団などでは実際の展覧会が行わず、インターネットサイトを利用した「バーチャル展覧会」を始めたところも見受けられる。また冊子による「誌上展」企画に切り替えている組織もあるようだ。

▼「新しい生活様式」の中で、展覧会の有り様とウィズコロナの関係模索は当面続いていくように思われる。

* *

ここでは、昨年の改組新第六回日展の結果を紹介します。

(掲載は本連盟会員のみとします)

改組新第六回日展

改組日展の第六回目。八六八二点（前年比プラス一三九点）の応募に対し入選一〇六六六点、うち新入選が一九五五点。入選率は一二・二％の厳選。栃木県勢は九名（前年比プラス一点、新入選一名）。

【新入選】

○斎藤一吼氏「深遠」（漢字）



【入選】（五十音順）

○赤澤寧生氏「豊の秋」（調和体）



○磯 翠茗氏「近業二種」（篆刻）



○川上鳴石氏「国見」（仮名）

○小林庸子氏「遷徙偃仰」（篆刻）

○嶋田 周氏「無聲有韻」（篆刻）



○平石彰之氏「眞山民詩」（漢字）

○福富玲茜氏「鞭辟近裏」（篆刻）

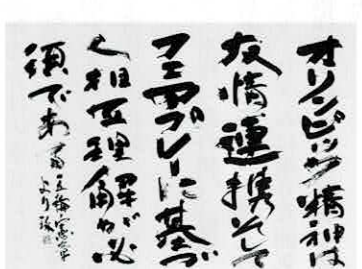
○松尾光晴氏「杜子美詩」（漢字）

【会 員】

*日賀野琢「王儼詩」（漢字）

日本の書2000人選

●日賀野 琢「オリンピック精神」



第73回栃木県芸術祭美術展

— 審査総評 —

審査員 重原聖鳥

第七十三回栃木県芸術祭美術展書道部門

は昨年に続いて、栃木県立美術館において、九月七日から九月十七日まで開催された。

八月初旬「まくり」(表具していない状態)

で鑑別審査を行い、通過した作品を九月初旬入賞作決定審査を、赤澤豊・柿沼翠流・久津美碧洋・五江湖霊水・嶋田周・日賀野琢・重原聖鳥の七名がその任にあたった。

応募作品点数三三〇点(漢字多字数一九八・少字数四二二・漢字仮名交り三四点・仮名二五五・篆刻三一点)。前回より微増。入選率は相変わらず厳しく六三・六六％

審査にあたっては、当然なことですが、公正、公平、厳正にして透明性のある審査を重ね、入選、入賞作品を決定致しました。

○審査総評

出品数の六十％を漢字多字数作品が占めたのは例年通りで、総じてレベルが向上してきているが、傑出、突出した作が少なかった。個性豊かな作品の研究が望まれる。

○芸術祭賞

神長雪華「新秋寄楽天」漢字多字数
力をこめて、グイグイと筆を操り、力強く練り鍛えられた洗練された筆致で、気力充実の円熟味ある快作。

昨年準芸術祭賞、連続の受賞 快挙。

○準芸術祭賞

鈴木蓮徑「葉根譚」漢字多字数

高いところからの落筆、運腕大きく極く自然な運筆は、筆の開閉の変化が豊かで、伸び伸び書作。生気が充滿して、実りの秋を彷彿させる力作。

○準芸術祭賞

見日月華「白露」大字仮名

百人一首から二首を連続しておさめた大字仮名作。文字の構成と行の構成が豊かな空間美を生み、墨の濃淡、渴筆の巧みでリズム感が美しいハーモニーを奏で流麗な表現が魅力的な作。下野書展賞と両手に花。

○奨励賞(十名)

・上村千峰「黄任詩」漢字多字数

気脈貫通した行草体。雄健な筆線が生きてきたとして造形の十分にこもる作で、気合の入ったみごとな作。

ただ、少し難解な文字がみられる。

・萩野谷香華「夏日雜興」

漢字多字数

淡々と気負いなく五十六文字の書作。

太細潤渇、強弱と巧みに駆使。流れも極めて自然で安定感の高い品のある作。

・下司香雪「早秋作」漢字多字数

長い修練に裏打された淡墨草書体による詩情豊かな作。線が紙面に溢れ、流麗で自然な統一感を感じさせ、早秋を彷彿させる。

・中島志光「李攀龍詩」

漢字多字数

前漢時代に見られる肉筆文字を素材とし、実力を見せた錬度のある重厚線で墨気豊かに雄渾にまとめあげた。

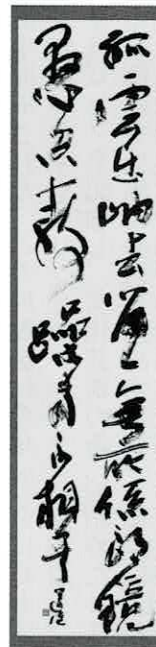
文字の大小、墨の潤渇等の配慮も良く、努力の結晶が存分に発揮された逸作。

・松本純美代「鮑照詩」

漢字多字数

北魏風の峻拔な楷書作。時に独特の異体字を気脈一貫まとめあげた。線が沈潜し、健康的で手慣れた運筆には、日ごろの習練と自信がみえる。

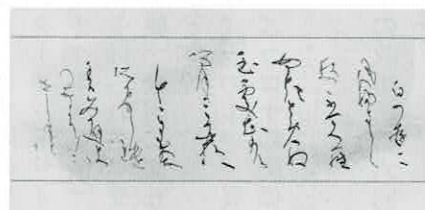
更に墨量変化の工夫など今後の課題。



「葉根譚」鈴木蓮徑



「新秋寄楽天」神長雪華



「白露」見日月華

・五月女章子「無」少字数

運筆の浮沈の変化に富んだ線は魅力的。筆が無駄なく自然に運筆され、豊潤で温みがあり、空間の白との韻が美しい。大字書作成の指針のようなものを得た佳作。

・井上幸枝「露の朝」仮名

仮名独特の流麗さと長文の中に雅に演出して、リズムに乗り雰囲気良く心地よい快作。王朝文化の優雅な風景と空気が浮ぶ。

・室井大輔「田安宗武の詩」

漢字仮名交り

字形の安定、確かなる用筆法で白黒の世界を表現している。

・渡邊司實「白木蓮」

漢字仮名交り

三行構成は、シンプルだが、線の変化は絶妙で、太細、潤渇のコントラストが美しさを高めた。

・藤沼亜衣「老龍鉄幹」篆刻

書体と布字配列のバランスがとれた安定感のある作。線質が重厚で、朱白のコントラストが美しい。

○U25賞

塚田康樹「雲程発軔」篆刻

刀の切れ味が確かで、将来が楽しみ。印を数多く彫ること。篆書の研究を腰をすえて勉強すること。今後を見守りたい。僅差で選外になった作品が数多くあり、次回に期待してやみません。

搬入、鑑別、審査、展示、搬出と酷暑の中専念された委員各位に深甚なる謝意を表します。

第73回栃木県芸術祭書道展

入選・入賞者のつどい

参与 柳田 昂 雲

令和元年度栃木県芸術祭美術展書道部門入選・入賞者のつどいは、9月16日（祝月）にホテルニューイタヤで開催されました。

当日は展覽会が開催された栃木県立美術館で書道部門の講評会があり、その後会場をホテルに移しての祝宴となりました。司会は倉持玄風理事。入選・入賞者の皆様は、お互いの努力を称え合い笑顔で入場されました。

主催者挨拶に立った松本宜響会長は、県芸術祭書道部門が73回という歴史と伝統を今に伝え、書の奥深い心をこれからも伝えていこうと話され、それを実践している入選・入賞者を称えました。

また来賓祝辞では栃木県文化協会副会長で本会常任顧問の鈴木源泉様、下野新聞社販売事業本部長の森山知実様から、栃木県芸術祭書道展が長い歴史を有し、栃木県の文化の

発展に貢献していることと、入選入賞者への温かい応援の言葉を頂きました。

その後、本年度審査員紹介、入選証授与、審査委員長講評（本会名誉顧問重原聖鳥先生）、受賞者紹介、受賞者代表挨拶と続き祝宴に。乾杯のご発声は文化協会事務局長の杉浦豊彦様。多くの来賓にご来賓頂き、盛会裏に楽しい時を過ごすことができました。



令和元年度

栃木県書道連盟表彰

「高校生書道顕彰」

総務部 篠崎 無 関

令和元年度の高校生書道顕彰について報告いたします。

例年通りに、県内各高等学校、特別支援学校に候補となる生徒を出してもらったよう依頼。13の学校から24名が候補者として出されました。その後、提出された実績を常任理事会で慎重に検討し、22名の表彰を決定しました。栃木県高等学校書道展の上位の賞や全国展での文部科学大臣賞受賞をはじめとした入賞、栃木県芸術祭の入選など、いずれも素晴らしい実績をあげた生徒ばかりです。

2月中に各学校に表彰状並びに額を送り、卒業式には各人が手にしたことと思います。

なお、連盟会員展に受賞者の半紙作品を展示することになっていましたので、半紙作品を送っていただきましたが会員展が中止となり、残念ながら今年度は展示が見送られたため、事務局の計らいで、掛け軸に表

具し返却させていただきました。表彰された生徒は次の通りです。

宇都宮高校

河津 諒

宇都宮東高校

小磯 明照

宇都宮南高校

蓼沼 歩夢

宇都宮女子高校

齋藤 大和

宇都宮中央女子高校

櫻井 遙

作新学院高校

大垣 友乃

足利女子高校

塚田 歩佳

真岡女子高校

谷口 美鈴

大田原女子高校

大友 綾乃

矢板東高校

五十嵐未優

國學院栃木高校

関野 希衣

萩原 理湖

石田 茜音

渡邊 啓太

泉 絢菜

萩原 理湖

上野 陽彩

萩原 理湖

柳岡 愛里

萩原 理湖

齋藤 夏美

萩原 理湖

郡司 紘花

萩原 理湖

鈴木 美遥

令和元年度 収支決算書

(単位：円)

[収入の部]				6,877,561	
項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘要	
1. 会費	3,287,500	3,210,000	△77,500	5,000円×632口	
2. 会費展	320,000	310,000	△10,000	2,500円×20口	
3. 女流展	150,000	162,000	△12,000	女流展出品料	
4. 懇親会費	2,300,000	2,106,000	△194,000	懇親会集金 飯塚先生お祝い	
5. 雑収入その他	63,300	155,361	92,061	利子、タワシール 女流展残余	
6. 前年度繰越金	934,200	934,200	0	前年度繰越金	
合 計	7,055,000	6,877,561	△177,439		

[支出の部]				5,276,706	
項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘要	
1. 総会費	40,000	37,958	△2,042	議長手当 弁当 花束	
2. 展覧会費	900,000	751,554	△148,446	会場費 案内状 搬出入飲料等	
3. 女流展	500,000	453,310	△46,690	会場費 案内状 搬出入飲料等	
3. 会議費	400,000	298,244	△101,756	会場費 案内状 搬出入飲料等	
3. 会費	320,000	214,165	△105,835		
顧問 参与会	10,000	0	△10,000		
正副会長会	10,000	11,988	1,988	1回、会場費等	
常任理事会	50,000	17,598	△32,402	7回、会場費等	
理事会	100,000	54,573	△45,427	5回、会場費等	
専門部会など	150,000	130,006	△19,994	総務、研修、書展各部会、会場費	
4. 国際書道交流費	340,000	0	△340,000		
5. 研修費	770,000	509,960	△260,040	講師謝金、会場費等	
講演会	70,000	75,000	5,000	講師謝金、会場費等	
実技講習会	500,000	284,116	△215,884	講師謝金、交通費、会場費等	
研修旅行	200,000	150,844	△49,156	入館料、案内講師謝金、昼食代等補助	
6. 地区活動費	100,000	35,018	△64,982	各地区役員改選送料	
7. 通信・印刷費	1,100,000	875,069	△224,931		
通信費	650,000	564,753	△85,247	葉書代、送料、通信費等	
印刷費	450,000	310,316	△139,684	会報、総会資料、封筒印刷等	
8. 渉外・運営費	380,000	224,775	△155,225	高校生顕彰費、県誌関係、慶弔費等	
9. 事務局費	550,000	347,319	△202,681	事務用品、ラベル用紙等	
消耗品費	150,000	47,177	△102,823	事務用品、ラベル用紙等	
事務運営費	400,000	300,142	△99,858	ホームページ管理費、事務関係諸費	
11. 懇親会費	2,400,000	2,280,888	△119,112	懇親会支払	
12. 予備金	155,000	0	△155,000		
13. 連盟基金	0	0	0		
合 計	7,055,000	5,276,706	△1,778,294		

収入決算額 6,877,561
支出決算額 5,276,706
差引残額 1,600,855

◎ 連盟基金残高 932,536
[内訳] 前年度繰越金 932,528
利 子 8

※残高については、次年度へ繰り越しました。
上記の通り決算報告致します。

会 計 監 査 報 告
栃木県書道連盟会長 松本 宣博
事務局会計 益子 育林

令和元年度 栃木県書道連盟 収入支出の決算について 令和2年4月2日に
監査した結果、使途、決算書、証憑等概ね適正であることを認めます。
なお、講師謝金等に対する所得税の源泉徴収の手続が行われていないので改善されたい。
令和2年6月7日

令和2年度 収支予算書

(単位：円)

[収入の部]				6,703,750	
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘要	
1. 会費	3,200,000	3,287,500	△87,500	5,000円×630口 2,500円×20口	
2. 会費展	0	320,000	△320,000	会員展中止の為	
3. 女流展	150,000	150,000	0	1,000円×150名	
4. 懇親会費	1,300,000	2,300,000	△1,000,000	懇親会集金	
5. 雑収入その他	452,895	63,300	289,595	会場費返金、タワシール、利子等	
6. 前年度繰越金	1,600,855	934,200	666,655	本年度繰越金	
合 計	6,703,750	7,055,000	△351,250		

[支出の部]				6,703,750	
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘要	
1. 総会費	0	40,000	△40,000	総会中止の為	
2. 展覧会費	400,000	900,000	△500,000	会員展中止の為	
3. 女流展	0	500,000	△500,000	女流展諸経費、会場費等	
3. 会議費	400,000	400,000	0		
顧問 参与会	320,000	320,000	0	1回、会場費等	
正副会長会	10,000	10,000	0	3回、会場費等	
常任理事会	50,000	50,000	0	6回、会場費等	
理事会	100,000	100,000	0	4回、会場費等	
専門部会など	150,000	150,000	0	総務、研修、書展各部会、実行委員会	
4. 国際書道交流費	0	340,000	△340,000		
5. 研修費	300,000	770,000	△470,000	講演会中止の為	
講演会	0	70,000	△70,000	講師謝金、会場費等	
実技講習会	300,000	500,000	△200,000	研修旅行中止の為	
研修旅行	0	200,000	△200,000		
6. 地区活動費	1,000	100,000	△99,000	地区役員改選なし	
7. 通信・印刷費	1,100,000	1,100,000	0		
通信費	650,000	650,000	0	送料、通信費等	
印刷費	450,000	450,000	0	総会資料、会報、各種行事資料等	
8. 渉外・運営費	380,000	380,000	0	高校生顕彰、慶弔費、県誌関係等	
9. 事務局費	550,000	550,000	0		
消耗品費	150,000	150,000	0	事務用品等	
事務運営費	400,000	400,000	0	HP管理運営費、事務関係諸費	
10. 懇親会費	1,500,000	2,400,000	△900,000	懇親会支払	
11. 予備金	1,152,750	155,000	997,750		
12. 連盟基金へ	1,000,000	0	1,000,000	連盟基金通帳へ預金	
合 計	6,703,750	7,055,000	△351,250		

収入予算額 6,703,750
支出予算額 6,703,750
差引残額 0

◎ 連盟基金残高 932,536
連盟基金 1,000,000
合 計 1,932,536

※講師謝金等に対する所得税の源泉徴収の手続を行う。

監事 大 瑞 浩
監事 益子 育林

令和元年度 事業報告

総務部	通常総会	4月7日(日)	会場：宇都宮グランドホテル 時間 13:00～14:30 89名参加 進行：澤田 寛(宇都宮) 議長：金田忠士(宇都宮) 書記：松本純美代(小山)、見目月華(塩谷) 議事録署名：橋本竹泉(宇都宮)、倉持玄風(小山) 出席者：89名 委任状：331名(会員数の3分の1:231名)
	栃木県文化選奨受賞祝賀会(久津美碧洋名誉顧問)	4月7日(日)	会場：宇都宮グランドホテル 受付：16:30 開宴：17:00 会費：6,000円 進行：関口鶴情 96名参加
	会報(38号)発行	9月1日(土)	A4版 22頁 1000部 講演会、実技講習会、第31回女流展、第57回会員展、孔子廟堂碑考、連盟各種行事、地区だより、地区別催し物案内等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	9月16日(月祝)	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 155名参加 会期：令和元年9月7日(土)～9月17日(火) (9/16批評会・9/14ワークショップ講師：五江渕霊水「いろはでラッタッタ!」)
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10月11日 推薦者申請締切・賞状の準備：12月 審査決定：1/19 申請者13校24名(昨年14校25名) 表彰者11校22名 結果通知発送：1月下旬、表彰状、額発送：2月
研修部	講演会	4月7日(日)	会場：宇都宮グランドホテル 時間：15:00～16:30 講師：久津美碧洋名誉顧問 演題：「我が書道人生」 123名参加
	実技講習会	6月23日(日)	会場：宇都宮グランドホテル 時間：14:00～16:30 講師：室井玄聳先生(創玄書道会 理事長) 演題：「詩文書創作講座」(心を通過させてからの書) 163名参加
	研修旅行	10月27日(日)	懇親会 17:00～19:00 同会場 会費：6,000円 73名参加 東京方面：東京国立博物館、書道博物館 参加費：6,000円 36名参加
書展部	第57回会員展	4月4日(木)～8日(月)	会場：宇都宮市文化会館 展示室 4/3(水)搬入・展示 10:00～ 319点出品 褒賞：栃木県書道連盟賞3点 審査員：正副会長 氏家真鴻、小林庸子、宮下幸鼓
	第32回女流展	令和2年2月8日(土)～11日(火祝)	会場：栃木県総合文化センター第4ABCギャラリー 2/8(土)搬入・展示 9:00～12:00 162点出品 2/11(火祝)批評会 講師：五江渕霊水副会長 懇親会 13:00～15:00 会場：日光かなめ屋 会費：4,000円 58名参加
	役員改選	7月14日(日)～	正副会長、常任理事、地区理事、参与の改選

各種会議実施状況

会議	顧問参与会	1回	令和2年4/18(土)中止
	正副会長会	2回	11/17(日) 令和2年4/2(木)
	常任理事会	8回	5/12(日) 7/14(日) 11/17(日) 12/1(日) 令和2年1/19(日) 2/2(日) 3/15(日) 4/12(日)
	理事会	5回	5/12(日) 7/14(日) 12/1(日) 令和2年2/2(日) 3/15(日)
	専門部会 総務部会	6回	5/17(金) 7/5(金) 7/19(金) 8/2(金) 9/1(日) 10/11(金)
	研修部会	3回	5/12(日) 7/14(日) 9/1(日)
	書展部会	4回	5/12(日) 8/26(日) 12/7(土) 2/7(金)
	会計監査	1回	令和2年4/2(木)
	事務局会議・作業	6回	4/28(日) 6/23(日) 9/1(日) 9/16(月祝) 12/1(日) 12/7(土)

令和2年度事業計画

総務部	通常総会	6月7日(日) 中止	会場：宇都宮グランドホテル 時間：13:00～14:30 通常総会に代わる措置として、書類による承認:81名 委任状:320名 (会員:662名、会員数の3分の1:221名を超えているので議事は承認された)
	懇親会	6月7日(日) 中止	会場：宇都宮グランドホテル 受付：16:30 開宴：17:00 会費：6,000円
	会報 (39号) 発行	9月1日(火)	A4版 12頁 800部 第32回女流展、連盟各種行事、地区により、地区別催し物案内等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月8日(日) 中止	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 (11/8 批評会・ワークショップ 10/31(土) 10時：講師 竹澤久子 「かなの書を学ぶ」文化協会への協力)
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10/9(金) 推薦者申請締切・賞状の準備：12月 審査決定：1/17 結果通知：1/22 表彰状、額発送：2月
研修部	講演会	6月7日(日) 中止	会場：宇都宮グランドホテル 時間：15:00～16:30 講師：松本宜馨会長 演題：「篆刻般若心経」 中止
	実技講習会	10月18日(日)	会場：栃木県総合文化センター 時間：14:00～15:30 講師：村松太子会長 演題：「顔真卿の書」 懇親会 17:00～19:00 同会場 会費：6,000円
	研修旅行	中止	
書展部	第58回会員展	4月23日(木)～26日(日) 中止	会場：栃木県総合文化センター第1～4ギャラリー 4/22(水)搬入・展示 10:00～ 4/25(土)ギャラリートーク10:00～11:30 (磯翠茗 川島汀蒲 日賀野琢) 褒賞：栃木県書道連盟賞3点 審査員：正副会長 中止
	第33回女流展	令和3年2月11日(木祝)～14日(日)	会場：栃木県総合文化センター第4ABCギャラリー 2/11(木祝)搬入・展示 10:00～12:30 2/14(日)講評会 11:00～12:30 講師：大浦星齋副会長 懇親会：日光かなめ屋 13:00～15:00

○各種会議実施予定

会議	顧問参与会	1回	令和3年4/18(日)
	正副会長会	4回	6/7(日) 7/12(日) 7/31(金) 令和3年4/2(金)
	常任理事会	6回	7/12(日) 11/29(日) 1/17(日) 2/7(日) 3/14(日) 4/11(日)
	理事会	4回	7/12(日) 11/29(日) 2/7(日) 3/14(日)
	専門部会	14回	総務部 6回、研修部 4回、書展部 4回
	会計監査	1回	令和3年4/2(金)
	事務局会議・作業	3回	6/21(日) 8/29(土) 10/18(日)

事務局より

事務局長 塚原 秀巖

○住所・連絡先など変更事項がある場合は事務局 TEL 080 (9404) 8385 までお知らせください。

お悔やみ

常任顧問 柿沼 翠流様 (矢板市)
参与 高梨 峰鶴様 (宇都宮市)
参与 高際 翠邦様 (栃木市)
理事 橋本 竹泉様 (宇都宮市)
会 員 山口 美泉様 (佐野市)
会 員 大谷 津芥舟様 (芳賀町)
会 員 高野 朴雲様 (宇都宮市)

事務局にご連絡を頂戴した方のみ掲載いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

○昨年の今頃には、一年後の東京オリンピック・パラリンピックに胸を弾ませていました。しかし新型コロナウイルスの影響で各展覧会も中止、延期。本連盟も大きな影響を受けました。本会報も大幅に減頁での発行となりましたが、発行、お届けすることができ胸を撫で下ろしています。「ステイホーム」が長くなり、某ゲームソフトやホットケーキミックスや乾麺の売り上げは大幅に伸びたとか。書道用品も売り切れた品が出たとの報道がされるように、皆さんいっぱい書き込みましょう。 S記